

ホタル

「あっ、ホタルだ。」

夏休み、ひろしが、ホタルを見る会にいったときのことです。ホタルのさとはには、たくさんのホタルがとんでいました。「みやざかりホタルの会」の人たちが、かつらのたきの水がながれてくる川の水をひいて、ホタルをはなし、そだてたのです。ホタルは、ピカッピカッときれいなひかりを出しながら、とんでいます。ひろしは、そっとちかづいて、さっとあみをかぶせました。

「やった。つかまえたぞ。」

虫かごは、ホタルでいっぱいになりました。

(お母さんにも、このホタルを見せてあげたい。)

小さなあかりが、ついたりきえたりして、とてもきれいです。

「もう、そろそろかえろう。」

お父さんの声がしたので、ひろしはその虫かごをもって、みんながあつまっているところにもどりました。すると、ともだちのけん一くんが、虫かごからホタルをにがしています。

「どうして、にがすの。」

「ホタルのいのちはみじかいんだ。だから、ひろいところで、おもいきりとばせてあげたいとおもって。」

ひろしは、じぶんの虫かごの中のホタルをじっ

と見ました。ホタルが力をふりしぼって、あかり
をつけたたり、けしたりしているように見えてきま
した。

ひろしは、虫かごからホタルを一ぴきずつ、そ
っとにがしました。そして、ホタルが空いっぱい
にひろがってとんでいくのを見つめていました。

